

(2) 日本

① 富山県富山市立北部中学校 「環境にやさしいふるさとづくり」

- | | |
|-------------|-------------|
| 1 国名及び自治体名 | 日本 富山県 |
| 2 活動団体名 | 大広田環境づくり協議会 |
| 3 記入者の所属 | 富山市立北部中学校 |
| 4 活動（取材）実施日 | 2005年4月～10月 |
| 5 活動（取材）場所 | 富山市大広田地区 |
| 6 活動参加人数 | 延べ 100名 |

7 活動内容

大広田地区の住民・団体・事業者・行政が協力して実施する「環境にやさしいふるさとづくり」を目指した活動。協議会の中にグリーン部会、資源部会及び情報部会の3つの部会を設置して実施。

- ・ 廃食用油の回収：常時、回収を実施している。
- ・ 「花の道づくり」：花の里親を募集し、育ててもらったプランター100個を設置した。
- ・ アルミ缶回収ボックスの設置：いつでも誰でもアルミ缶を提供できるようにアルミ缶回収ボックスを設置した。
- ・ 「第一回大広田伝説のとびだんご投げ」：大広田地区に伝わる「飛び団子伝説」になぞらえて300個のEMだんごを作り、環境浄化の思いをこめて海岸から海へ投下した。
- ・ 「全国エコタウン大会 in とやま」で活動報告し、またイベントへ参加した。

8 活動の実施成果または参加者の感想等

- ・ 住民の環境問題に関する関心が高まったこと。
- ・ 環境づくりの中心となる人材を育成できたこと。
- ・ 地区内の各組織の連携が強まると共に、行政・企業・教育機関との連携が実現したこと。

9 今後の活動実施計画

- ・ これまで成果のあった活動（緑化運動、廃食用油回収など）の継続。
- ・ 広く住民が参加できる活動の実施と、環境づくり活動の周辺地域までの拡大。
- ・ 全国エコタウン関連組織との連携。

10 連絡先

住所：Oohirota Kankyo-zukuri Kyogikai (Oohirota District Center)

2-1-14 Higashitoyama-kotobuki-cho, Toyama city, Toyama prefecture, 931-8452
JAPAN

TEL/FAX： +81-76-437-9480 / +81-76-438-9014

メールアドレス：goohirota@mb.viplt.ne.jp

ウェブサイト：<http://www.viplt.ne.jp/8ED83AB2/ec/>



プランター作り



とびだんご投げ

② 富山県富山市立北部中学校 「EMだんご作り体験（有用微生物の力できれいな川を取り戻そう）」

- 1 国名及び自治体名 日本 富山県
- 2 活動団体名 富山市立北部中学校
- 3 記入者の所属 富山市立北部中学校
- 4 活動（取材）実施日 2005年11月19日
- 5 活動（取材）場所 富山市立北部中学校
- 6 活動参加人数 約40名（生徒）

- 7 活動内容
 - ・ 北部中学校の学習発表会で、「北東アジア青少年環境シンポジウム」の展示コーナーを設け、土と米ぬかとEM溶液を練り合わせて「EMだんご」を作った。
 - ・ 校区の大広田環境づくり協議会副会長の始良（あいら）さんを指導者として迎え、「EMIには川底にたまったヘドロを浄化する力がある」との説明と実地指導を受けた。
 - ・ 次に、シンポジウム参加者がリーダーとなって参加者とともにだんごを作成し、約40分間で大小合わせて120個の「EMだんご」ができあがった。
 - ・ このだんごは乾燥させた後、学校区内の川へ投入する予定。

- 8 活動の実施成果または参加者の感想等
 - ・ 「EMとは何か?」、「初めてだからやってみたい」と、多くの生徒が体験コーナーに集まった。
 - ・ 参加者からは、「触ってみるとひんやりした」、「EM溶液特有の臭いがした」、「乾燥したら投げてみたい」の他、「どんなところに投げたら効果があるのか」、「何個ぐらい作ればいいのか」、「自分の家へ持ち帰ってもいいか」など、環境に関するいろいろな質問も出されて、指導者から説明を聞いた。

- 9 今後の活動実施計画
 - ・ だんご作りは、今後1～2ヶ月の1回ぐらいのペースで続けていく予定。
 - ・ 1,000個単位でそろったときに、汚れている川を選び、だんご作り参加者が出かけて行って投入する。
 - ・ また、投入前と投入後の水質の変化を調べて、その結果を学校内で発表する予定。

- 10 連絡先
住所：Hokubu Junior High School
2-4-52 Higashitoyama-kotobuki-cho, Toyama city, Toyama prefecture, 931-8452 JAPAN
TEL/FAX：+81-76-438-5161 / +81-76-438-5162
メールアドレス：hokubutoyama-jhs@tym.ed.jp
ウェブサイト：<http://www.tym.ed.jp/sc255/>



作成したEMだんご

③ 富山県小矢部市立津沢中学校 「環境保全活動についての啓蒙活動」

- 1 国名及び自治体名 日本 富山県
- 2 活動団体名 小矢部市立津沢中学校
- 3 記入者の所属 小矢部市立津沢中学校
- 4 活動（取材）実施日 2005年9月～11月、及び10月30日（日）
- 5 活動（取材）場所 小矢部市立津沢中学校体育館
- 6 活動参加人数 全校生徒156名、保護者及び地域住民約200名

7 活動内容

- ・ アルミ缶回収活動
- ・ 学習発表会における環境保全活動についての啓蒙活動

8 活動の実施成果または参加者の感想等

- ・ ゴミを不用意に捨てない心が育つとともに、ゴミを単なるゴミとして扱うのではなく、資源として再利用しようとする心が育った。その例として、使用済み用紙の再利用数が増えたり、校内から出るゴミの量が減ったりした。
- ・ 日頃使っているものを大切に扱い、長く使用することで、資源の無駄遣いをしないでおうとする心が育った。
- ・ 一人ひとりのゴミの捨て方やエネルギーの使い方などの日常生活のあり方が地球環境に影響することを知り、環境保全のために意識して行動しようとする心が育った。
- ・ 世界各国が協力して地球環境保全活動を行っていることを知り、自国だけの問題ではなく世界共通の問題であることが理解できた。また、これまで以上に世界が協力していく必要性を感じることができた。
- ・ 地球環境保全活動の重要性や必要性を啓蒙し、保全活動を進めていくための行動をさらに広めていくことが大切であることが理解できた。

9 今後の活動実施計画

- ・ アルミ缶回収活動の継続
- ・ 生徒会委員会による環境保全活動に関する学習と活動
- ・ P T Aによる環境保全活動に関する活動（資源ゴミ回収）
- ・ 学習発表会における環境保全活動についての啓蒙活動

10 連絡先

住所：Tsuzawa Junior High School 1231 Kiyosawa, Oyabe city, Toyama prefecture, 932-0112
JAPAN
TEL/FAX：+81-766-61-2027 / +81-766-61-4584
メールアドレス：tuzat@mel.tym.ed.jp
ウェブサイト：<http://www.tym.ed.jp/sc302/>



アルミ缶回収活動



学習発表会での啓蒙活動

④ 富山県南砺市立上平中学校 「結（ゆい）」の心を守り伝える」

- | | |
|-------------|-------------------|
| 1 国名及び自治体名 | 日本 富山県 |
| 2 活動団体名 | 五箇山自然文化研究会 |
| 3 記入者の所属 | 南砺市立上平中学校 |
| 4 活動（取材）実施日 | 2006年10月 |
| 5 活動（取材）場所 | 南砺市上平地域 |
| 6 活動参加人数 | 研究会40名と県ナチュラリストの方 |

7 活動（取材）内容

五箇山自然文化研究会の活動内容は幅広く、地域の自然・文化・歴史に関わる様々なことを研究、実践されている。環境保全ということで活動をされているわけではないのだが、この地域でいう「結」の心（人と人との共存の心）を守り伝えていこうとされるその活動が環境と深く結びついている。

五箇山地域には、世界遺産の認定を受けた合掌集落がある。合掌造りと呼ばれる建物は、雪の多い五箇山の風土に合った形をしていて、雪の重みで曲がった木を梁（チョンナ梁）として利用したり、ネソという木を揉（も）んで作ったひもを結びに使ったり、と自然を生かした建築技術が用いられている。屋根は茅（かや）でできていて、数年に一度取り替えられる。今では地元の森林組合が行うが、以前は集落近所総出で行っていた。また家屋は、昔は塩硝（えんしょう）づくりや繭（まゆ）の生産の場でもあったため、暮らしに合った民家形態になっている。先人たちは「結」の心を大切にしながら、自然環境から恵みを受け、利用させてもらい、共生してきたことがうかがえる。

現代の私たちは、自然から恵みを受け、利用することばかり考えてきたように思う。

五箇山自然文化研究会の活動は、忘れかけていた共生の心の大切さを教えてくれる。活動の一つとして、富山県のナチュラリストのみなさんと共に合掌集落の観光ガイドボランティアをされている。また研究されたことを本にまとめて、多くの人に発信されている。そこには建物だけを残すのではなく、自然環境との関わり、人と人とのつながりを伝えていくことが世界遺産認定の本当の意味ではないか、という思いが込められている。

薄れてきた「結」の心を取り戻すための、研究会の方の願いがある。以前のような集落近所総出のスタイルで、合掌屋根の葺（ふ）き替えができないかということだ。そのためには茅を育て、杉を植えるなどして山を手入れしていく必要がある。

研究会の方の活動は、地域環境から人の輪とともに広がっていこう。

⑤ 富山県射水市立新湊西部中学校 「射水市アダプト・プログラム」

- 1 国名及び自治体名 日本 富山県
- 2 活動団体名 射水市役所環境課
- 3 記入者の所属 射水市立新湊西部中学校
- 4 活動（取材）実施日 2006年8月～10月
- 5 活動（取材）場所 射水市三日曾根地区ほか
- 6 活動参加人数 延べ30名

7 活動内容

市が管理する道路、公園などの公共空間を、場所を決めてボランティアで市民や事業者が清掃・美化活動をする活動。市は活動の支援として、必要な用具の支給や貸与、廃棄物の回収、アダプトサイン（啓発用看板）の設置などを行う。1999年より、旧新湊市で実施された。現在の主な活動は以下のとおりである。

- ・ 「三日曾根公園をきれいにする会」：約10年前より、有志による地域の公園の美化活動を行う。「花と緑の頭取銀行」「グリーンキーパー」「児童クラブ」「個人ボランティア」の4団体が協力して活動を行っている。
- ・ 「新湊子どもの遊び場つくろう会」：子どもが伸び伸びと育つ空間づくり、自然や生き物に触れ合える魅力ある場所づくりを目標に、ごみ拾いや自然遊びを行う。
- ・ 「がんばりグループ」：新湊漁港近辺の道路や防波堤のごみ拾いを行い、自然環境を整えることで、住みよい町づくりを目指す。
- ・ セキハ（株）、STプロダクツ（株）新湊工場・新湊マテリアル工場、エスエス製菓（株）富山工場ほか：企業単位で、工場周辺や海岸などのごみ拾いをはじめとした美化活動を行う。これらの活動の中から、「三日曾根公園をきれいにする会」と「新湊子どもの遊び場つくろう会」に参加した。

8 活動の実施成果または参加者の感想等

- ・ 自分の住んでいる地域は自分の手できれいにするという意識が大切である。
- ・ 子どもの目線で活動すると、見えてこなかった環境の汚れに気づいた。

9 今後の活動実施計画

- ・ 地域の学校単位でアダプト・プログラムに参加できるような活動の実施。
- ・ 環境美化に対する地域への啓発活動や広報活動の実施。
- ・ ごみ拾いなどへの継続的な取り組み。

10 連絡先

住所：Kankyo ka (Imizu-Shiyakusyo)

703 Kojima, Imizu city, Toyama prefecture, 939-0292 JAPAN

TEL/FAX：0766-52-7967 / 0766-52-1507

メールアドレス：Kankyou@city.imizu.lg.jp

ウェブサイト：http://www7.city.imizu.toyama.jp/project/1306000/29/29_1.html

